

上越 威守松山・六万騎山・方丈山 報告書

【山 域】新潟県南魚沼市

【場 所】威守松山、六万騎山、方丈山

【行動日】平成 31 年 4 月 12 日～13 日

【参加者】CL 柘植、尾崎（記録）

【行程】

4/11 21:00 千葉 21:00 - 23:00 赤城 PA

4/12

【威守松山】

赤城 PA 4:30 発 - 清水 7:00 (登山開始) - 10:15

威守松山山頂 10:30 - 12:15 清水着

【六万騎山】

駐車場 13:45 登山開始 - 14:20 六万騎山

- 15:10 駐車場着 - 銭淵公園 (泊)

4/13

【方丈山】

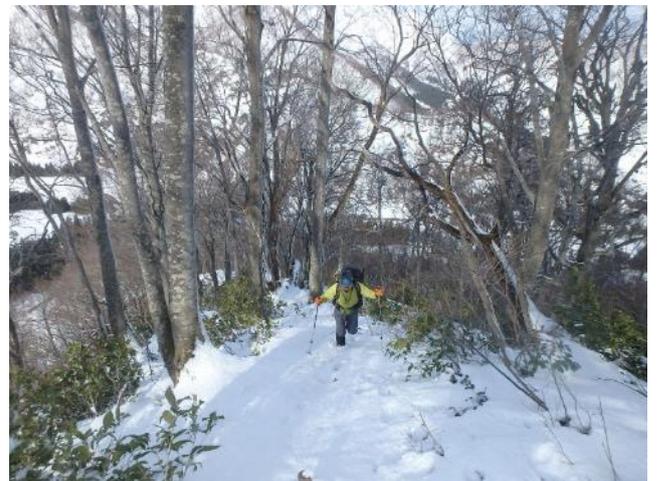
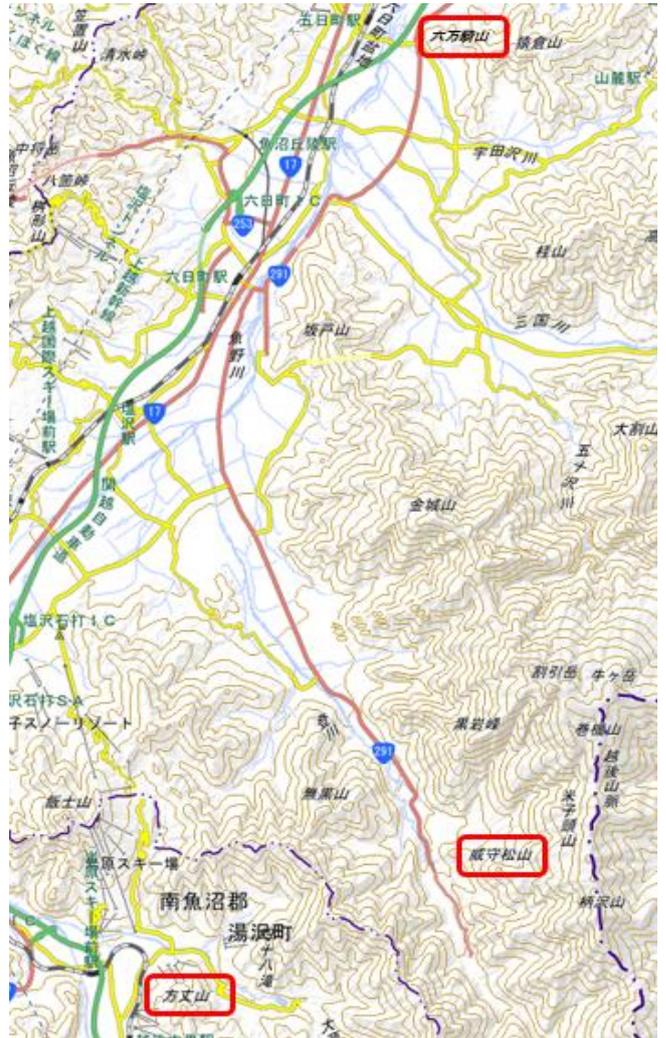
銭淵公園 6:00 - 7:18 湯沢パークスキー場 -

9:12 方丈山山頂着 - 10:23 湯沢パークスキー場

着

【内容】

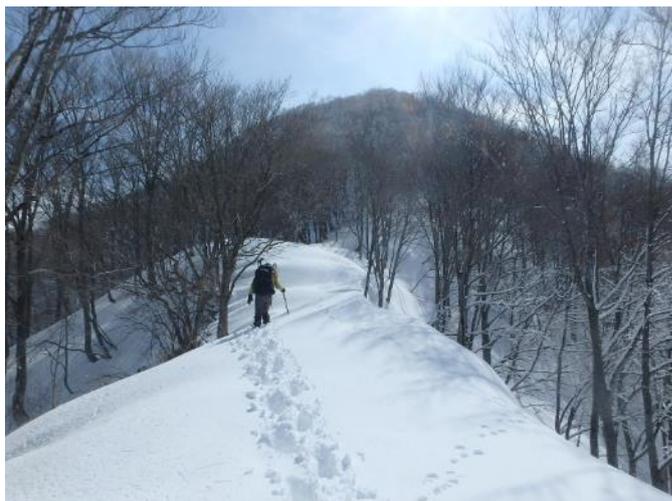
今回の山行は当初、「岳人・特選マイナー 12 名山」の一角をなす知る人ぞ知る越後山脈の難関「矢筈岳」を登る予定でしたが、当初の 4 人が直前に 2 人になってしまい、2 人用のテントがないためあえなく中止。でもそこは常にベストな山行を企画してくれる T リーダーが今回は上越の三山「威守松山」「六万騎山」「コモノカミの頭」をセレクト、急遽予定を変更しての決行となりました。



登路は赤線、下りは紺線

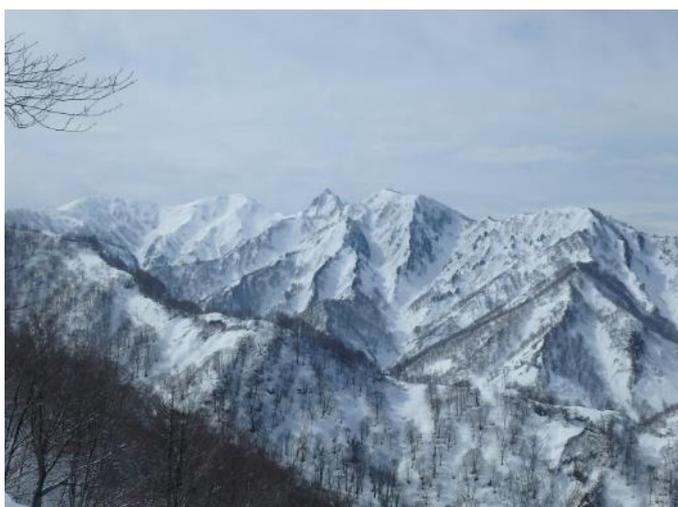
スタートの急登

12日、前夜仮眠した関越道・赤城PAを出発し、威守松山の麓、清水集落に駐車。神社の裏手から登山を開始。出発地点の標高は約600m、威守松山は1214mなので、高低差おおよそ600m強。標高1200m強の低山に標高差は600mのため、登り始め当初は「半日には丁度いい里山ハイクにちょっと雪がプラスしたくらいかな」と軽い気持ちで歩き始める。が、のっけから雪の急登でした。雪はシャリシャリのシャーベット状で滑りやすく、且つ踏み抜きやすく非常に歩き辛い。ロープが張られていた箇所があるが、足場が悪く、バランスよく立つこともままならないため、ここぞとばかりにロープに頼ってしまう。標高約670m付近に大きな鉄塔があり、その下でアイゼンを装着する。小休止後、私は上越の山の更なる険しさを知る由もなく、出発する。



送電鉄塔付近から望む威守松山

ノートレースの尾根を進む



上越のマッターホルン大源太山を北面から

山頂近く（背後は巻機山）

歩き始めるとすぐに膝下ラッセルとなり、しばらくすると傾斜が一気に急になる。踏み抜きやすいシャーベット状の雪質に加え、それからというもの終始膝～膝上ラッセル。雪を踏み抜いてしまうと一気に腰まで雪に足が埋まる。急な箇所では足が滑り落ちてしまい、何度も足を上げなければならず、慎重に足を置かないと足場が崩れてしまうため集中力も必要とし、体力は急激に奪われていく。そんな雪との格闘が登り始めてから3時間以上続き、ようやく威守松山の頂上に到着。



山頂へ最後の登り

威守松山の山頂

山頂からは雪をまとった大源太山や巻機山が望める360度の大展望。この世とは思えない贅沢な景色をリーダーと二人占めする。しかし登って来るのも大変なら、下るのもまた大変。下山時は雪に足を取られて転倒、尻餅をついてしまい1m程雪の急斜面を滑落。とっさに2週間前の雪上訓練で教わった滑落停止をし、「雪上訓練に参加していて良かったー」と感傷に浸る。下山時には雪が深い箇所もあり最終的にはつぼ足→アイゼン→つぼ足→ワカンに加え、ストックとピッケルも使い、雪山フルスペックでの登山となり、半日とは思えない程、内容の充実した雪山登山となりました。

午後は八海山の麓に位置する標高320mの六万騎山へ移動する。この六万騎山はただの低山ではなく、山域全土に渡りカタクリが植生している花の山で、登り始めから山頂に至るまで登山道はカタクリの群生に囲まれ、花の鑑賞を楽しみながら登ることが出来ました。下山時は昭文社「山と高原地図」に記載されている大回りのコースで下山を試みるも、登山道が全く整備されておらず、足場の悪いほぼ垂直の道を降りていかなければならなかったため、引き返し、従来のハイキングルートで下山しました。下山後は六日町の公衆温泉「湯らりあ」で汗を流し、近くの公園で野営しました。



概念図

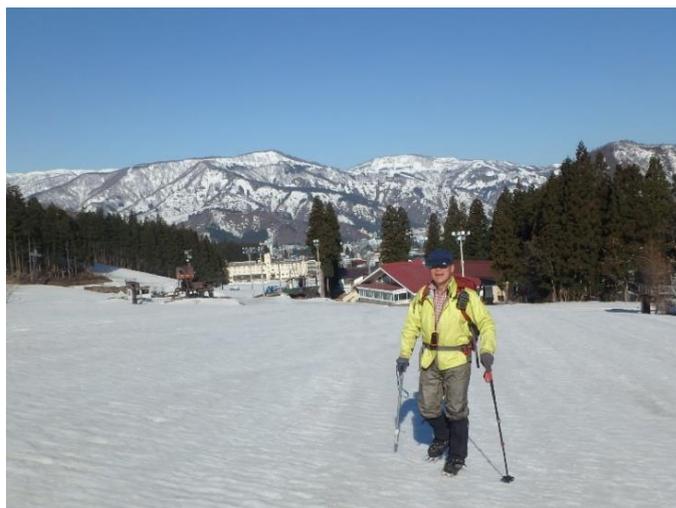
見事なカタクリの群生



六万騎山の山頂（石碑を補強工事中）

きれいな花

13日は本当は土樽から登る「コマノカミの頭」の予定でしたが、リーダーが腰痛&筋肉痛で無理ということで、湯沢パークスキー場へ向かい方丈山へ登りました。既にシーズンオフとなり営業していない湯沢パークスキー場のゲレンデから登り、ゲレンデトップからアイゼンを装着。尾根上の多くの雪は溶けており、整地されていない登山道をゆっくりと登っていきます。山頂直下に至ると、細くなった雪の吹き溜まりの上を慎重に進み、今にも崩れそうな雪庇を横切り、踏み跡のない真っ白で小さな山頂に到着しました。ここからは前日眺めた大源太山を反対側から望むことが出来、他にも飯土山、荒沢山、かぐらスキー場など、青空の下、360度の展望を楽しむことが出来ました。



概念図

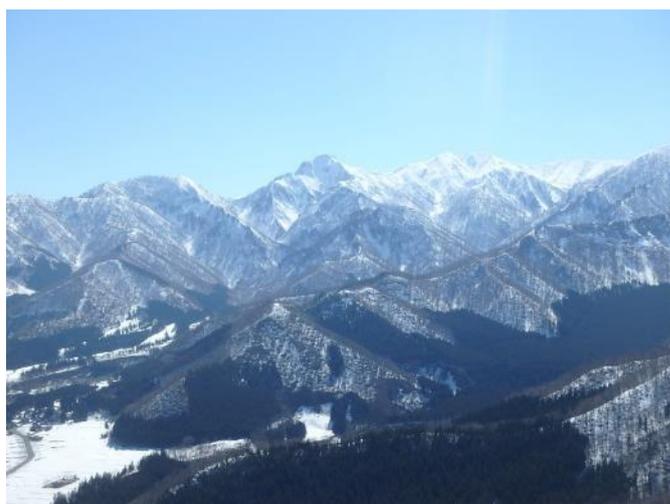
スキー場のゲレンデからスタート



今日もまた誰もいない尾根

山頂への細尾根に行く





山頂記念写真

山頂から望む大源太山（昨日と逆方向から）

今回は当初の予定から急遽変更となった山行でしたが、低山でも非常に登りがいのある山が沢山あることを知ることが出来、山の魅力は知名度や標高や山容だけではない、足を踏み入れた時の季節や天気、コンディション、ルート、景色、文化的背景やその他様々な要素が重層的に重なり合い一つの山の魅力を形成するのだと強く感じた、とても勉強になった山行でした。それも一重に様々な山に行き尽くしている引き出しの豊富なTリーダーが私では知り得ないようなまだ見ぬ魅力的な山を見せて下さったおかげです。Tリーダーお疲れ様でした。ありがとうございました。

記録：尾崎